新たな一年がスタート

年越しイベント「時の祭典」

世界一の一年計砂時計「砂暦」
（高さ５.２ｍ、砂の量１ｔ）

仁摩町天河内（あまごうち）にある仁摩サンドミュージアムで、毎年大晦日に年越しイベント「時の祭典」が開催されます。

このイベントは、サンドミュージアムのシンボルである一年計砂時計『砂暦（すなごよみ）』を新年の訪れとともにぐるりと回転させ、新たな年の門出を祝うもので、平成２年の大晦日から行われています。

この「時の祭典」のメインイベントである「砂時計の回転綱引き」は、公募で集まった新年の年男・年女１０８人が砂時計につながる大綱を引き、巨大な砂時計を回転させます。

また、砂時計を回転し新年を迎えると同時に、およそ８００発の大花火が真冬の空に大輪の花を咲かせます。この光景は、仁摩の冬の風物詩となっています。

当日は、綱引きイベントのほかにもストリートミュージシャンによる野外ライブやゲームなど、様々な催しが用意されています。また、会場では、そばや豚汁のふるまいも行われます。

ふるさとでいつもと違う新年を迎えてみませんか。

◆問い合わせ
仁摩サンドミュージアム
電話　０８５４－８８－３７７６

回転綱引きの様子

シリーズ

新 石見銀山 ⑦

矢滝（やたき）城跡からの眺望

私は毎年、祖式町矢滝と温泉津町西田にまたがる中世の山城「矢滝城跡」に登っています。

標高は、６３４ｍ、３６０度のパノラマ。

今年は10月中旬に、祖式町の方々が登山道や頂上の美化作業をされたので、いっしょに草刈りや枝打ちをして良い汗を流しました。

参加されている地元の方の中には、戦後、この山の頂上にアメリカ軍の中継基地があった頃に食料や水を運んでいた方、ひと山越えた隣の西田集落へ山越えし通った方々もいます。

作業後は、当時の山城跡の風情、例えば主郭や堀切の跡、古い往還の道などの話で「生きた」歴史を体感できました。あらためて、頂上から石見銀山の全体を見渡すと、戦国時代から第２次世界大戦後までの５００年間が思い起こされます。

矢滝城跡は、日頃より地元の方が日常的な管理をしておられ、登山には最適です。また、このような機会をとらえ、登ってみることもお勧めします。

美化作業後、矢筈（やはず）城跡越し（右手前）に日本海を望む。

文献によれば、享禄元年（１５２８）、戦国大名大内義隆が銀を産出する仙ノ山から一里ほど南の矢滝城を銀山防備の拠点としたと記されている。

眼下には温泉津と柵内を結ぶ銀山街道が走る。